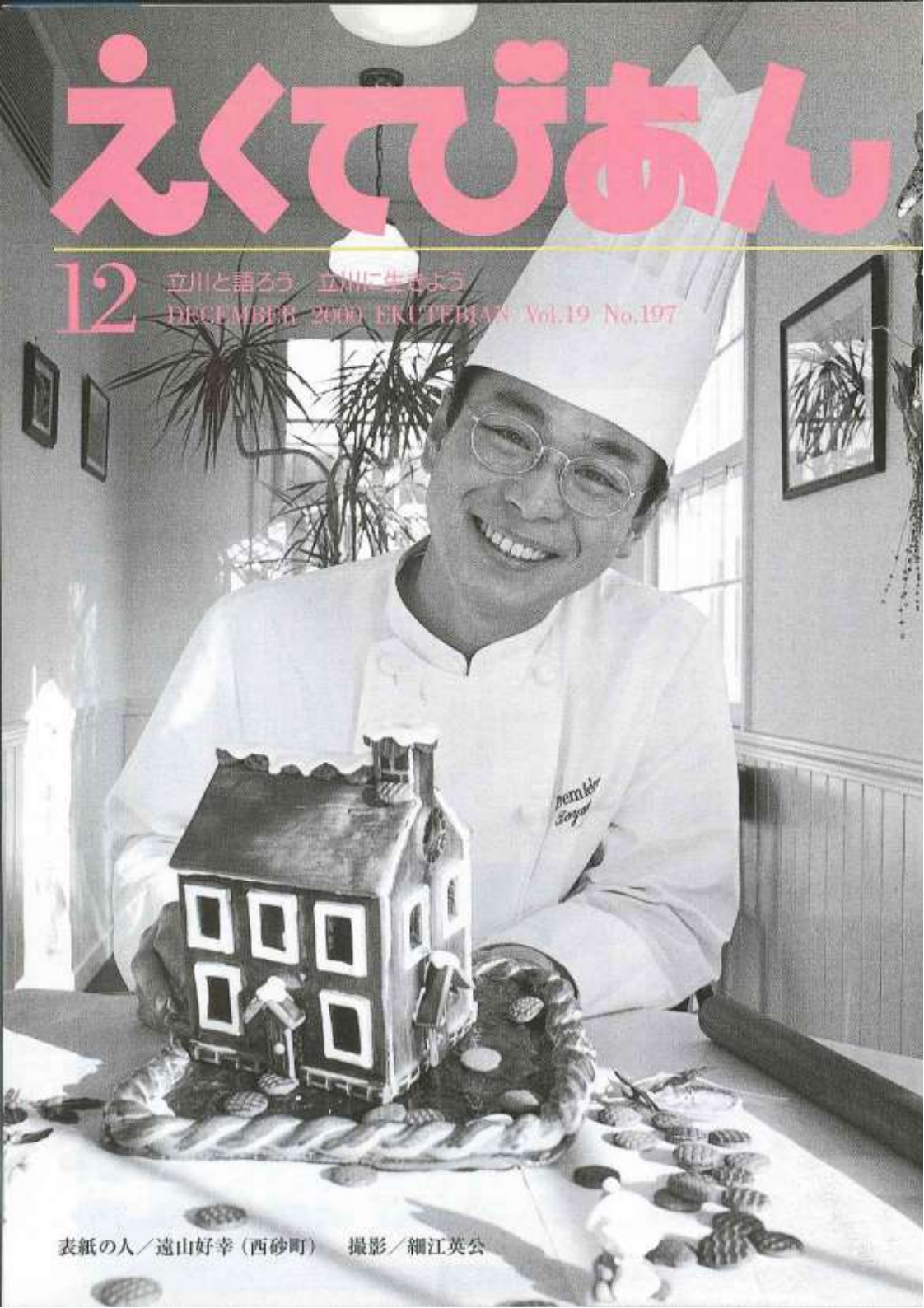


# えくてびあん

12

立川と語ろう 立川に生かそう  
DECEMBER 2000 EKUTEBIAN Vol.19 No.197



表紙の人／遠山好幸(西砂町) 撮影／細江英公

【欂】

【ケヤキ】

学名：Zelkova serrata  
ニレ科ケヤキ属。日本の代表的な広葉樹のひとつ。寿命が長く、材としても幅広い用途に使われる。

昭和四十九年五月、立川のシンボルとなる木と花が選定された。花は三月号で紹介したコブシ、そして木は「ケヤキ」である。

扇のように広がる緑の枝々、秋には葉が黄褐色や赤褐色に美しく色づいて散る樹木で、冬枯立ちの中にそびえる「簪立ち」の勇姿と美しさ、ひととき高い梢を鳴らして吹く風をいち早く知らせてくれるのもケヤキである。そして武蔵野の名物、赤ッ風の土ほこりを防ぎ、冬の温もりを与えてくれるのもまた、ケヤキなのである。

武蔵野の地味に合っているのだから、方々でケヤキの大木を見かける。現在、立川市の保存樹木に指定されているものは二百三十八本にのぼるが、そのうち約二百本がケヤキである。その大部分が屋敷林の中に存在しているところから、いかに私たちの生活に密着していた樹木であったかが伺い知れる。

立川のケヤキの名木はたくさんあるので選択に迷うところだが、市の唯一の天然記念物に指定されているのが「八幡様の大ケヤキ」である。

これぞ名木中の名木であろう。周囲はなんと六メートル以上もある。建長五年（一一五二）、八幡神社創建の頃に植えられたものと伝えられ、樹齢はおよそ七五〇年といわれている。落雷による樹皮の枯損に加え、傷んだ部分が長い間の風雨にさらされ、昨今はその衰弱も著しく目立つようになり心配である。至急良好な対策が施され、わが街の貴重な名木を失うことなく保存していききたいものである。



所在地：八幡神社跡  
(柴崎町1丁目)

裸木となりて櫻の心決る

丸山高子



# これ、実は私自身の成長記録なんです。

## 公立中学校「身障学級」教諭 甲斐眞理子さん



■甲斐眞理子（がいまりこ）／昭和49年から体育教師として多摩地域の中学校で教鞭をとってきた甲斐さん。平成9年に現在の中学校に移り、身障学級を担任。心身に障害をもつ子供たちの指導にあたる。昨年、甲斐さんのクラスにいくつかの難病を抱える「まみちゃん」が入学。読み書きはおろか話すこともままならなかった彼女は、甲斐さんはじめ教師たちの体当たりの指導によって、1年間奇跡的な快復をとげた。その試行錯誤の記録を、甲斐さんはこの「日々成長するまみちゃん〜障害児の快復記録」として上梓。各方面で話題を呼んでいる。昭和町在住。■立井啓介（たていけいすけ）／本誌発行人。

啓介 甲斐さん、御本、読ませていただきました。実は私事なんですけど、うちの子どもに障害をもってしまってます。甲斐 あ、そうなんです。啓介 周りの人間が思いも寄らない部分で、人知れず悩んだり苦しんだりしている。その「思いも寄らない」というところが難しいんですよね。もちろん障害といっても様々で、それを一括りにしてはできないんですが、でも、本当に興味深く読ませ

てきたんです。いわゆるダウン症候群で、さらに幾つかの難病を抱えていて、身障学級にいる他の子よりも明らかに重い症状だったんです。啓介 最初、具体的にはどんな状態だったんですか。甲斐 たえば咀嚼力が弱いので給食も... 私たちが砕いて与えたり、トイレも教師が二人がかりで付き添わなければならなかったりとか。特にひどかったのは、突然起こるパニック障害の発作ですね。啓介 ああ、突然暴れ出してしま。甲斐 物は投げ、大声は発する。その間は全く手がつけられなくなってしまうんです。それがいつ起こるのか予想もできない。さっきまでおとなしかったと思ったら、突然... 啓介 ...それはしかし、壮絶ですね。どうしていいかわからないでしょう。甲斐 医者から運動の制限も与えられていて、パニックが続くと危険な状態にもなってしまう。実際、私たちもお手上げで、その状態はしばらく続いたんです。ところが、二ヶ月くらいたった頃からそれがピタリと止んだんです。啓介 何があったんですか。甲斐 あ、結論から云



から始まって、ずっと多摩地域で体育を教えてました。平成九年に今の学校に移りまして、ここで初めて身障学級を受け持つことになったんです。啓介 学校の先生になろうと思われたのは、いつくらいからですか。甲斐 母親が小学校の教師をやっていたということもあるんですが... 小学校五年生の時にね、一瞬で決めました。啓介 一瞬？ 甲斐 私は九州の佐賀県出身なんですけど、当時通った小学校は、グラウンドを挟んで中学校が隣接してたんです。で、授業中、何気なく外を見てたら中学生が体育の授業をやっている、それを指導している先生を見た瞬間「うわあ、カッコいい」って(笑)。啓介 男の先生？ 甲斐 いえいえ、女性なんです。もう、一瞬なんです。私、ああいう先生になりたい！って。啓介 その先生のどんなところに魅力を感じられたんでしょう。甲斐 うーん、何と云ったらいいんでしょう... エネルギーというか、生命力といった方がいいのか、その先生の指導している姿を見た時、「あ、生きてる！」って感じがしたんです。啓介 で、その先生のいる中学校に進学されたわけですか。甲斐 ええ。それで「私、先生みたいな教師になりたいんですけど、どこの大学を出たんですか？」って訊いたんです。すると、東京の国立にある音体学校を出た。啓介 音体学校？ あ、今の東京女子体育大学？ 甲斐 そうです、そうです。昭和四十六年に入学して、結局そのまま立川に住み

うと「誉めた」んです。これはそう指導しようと思っただけのことではなく、正直なところ、その時の私には彼女を誉めることしか出来なかったんです。どんなに物を投げて、暴れても絶対に叱らない。とにかく、誉める。何をやっても「まみちゃん、上手だよ」と誉める。クラス全員で誉めるんです。それを続けているうちに、いつの間にかパニック障害がなくなりました。啓介 ... (絶句)。甲斐 彼女を見ていて、ある時期から目の奥に光を感じるようになったんです。何かを云いたい、伝えたいというように、それに気がついたとき、どういうわけだか「あ、この子は大丈夫だ」って思えるようになったんです。あせっちゃだめなんだってことに気づいたんです。不思議なことにそう思えるようになってから、彼女がどんどん快復してきたんです。自分の名前を云えるようになり、漢字も覚えられるようになって。この前もマラソン大会で、八百メートルを走り抜いたんです。啓介 ... いやあ、ほんの少し何っただけ

ついでに言わせて。甲斐 ええ、死んでも立ち上がりませんから、佐賀の女は(笑)。もう、受験前の一時期だけ勉強して、なんとか志望校に入れたんです。大学進学の時も推薦入学の資格をとるために、その時だけ勉強。特にあの頃は、女は大学なんか行かなくてもいいという風潮でしたし、親も東京行きを猛反対してましたから。でも反対されると余計燃えてきて「絶対、大学へ行って教師になってやる！」って。啓介 確かに憧れからすべて始まったんです。けれども、劣等生だった甲斐さんが、教える側を目指すというのも面白いんですよ。甲斐 今振り返ってみると、子供ながらにいろんなことを考えてたような気がするんです。よく覚えているのは、小学生の時、教師が子供の心を全く理解していないということも感じてたんです。劣等生のクセして「私だったらこうする子供とこう接する」って、いつも考えてた。自分は勉強は苦手だけど、だからこそ私みたいな人間が先生にならなきゃ、なんて勝手に思ってたんです(笑)。啓介 なるほど、そうだったんですか。じゃこの辺で「まみちゃん」のことを伺おうと思うんですが。甲斐 去年の四月、私のクラスに入学し

ですが、ちょっと言葉が出ませんね。甲斐さん、一般の教師とはまた別の、大変な苦労がございました。甲斐 確かに悩みました。どうすればいいんだろうって。でも今は、正直な気持ち、私の方が彼女たちに教わっているような気がするんです。最初にも申し上げましたが、教育って与えるものではなく、引き出すものではないだろうか、と。長く教師をやっていると、いつの間にか自分の枠からはみ出る子供は「悪い子」という目で見てしまふんです。特に私は体育教師でしたから、子供たちが全員同じことをきちんとやると、それが気持ちよく感じてしまう。その恐ろしさによって、気がついたんです。啓介 小さい頃に感じた「子供の心を理解していない」教師の姿に、いつの間にか自分が近づいてしまっていたわけですね。甲斐 ええ、まさにその通りなんです。その事を、まみちゃんたちが私に教えてくれた。この本は「障害児の快復記録」と題しましたが、実は、これは私自身の成長記録なんです。

スタジオ269	栄町2-8-10 527-0269
写真のエース	栄町2-9-2 523-0851
石原薬局	栄町2-10-3 523-4067
サイクルハウス 輪輪館	栄町2-12-17 522-8100
ビジネスHOTEL クボタ	栄町2-12-23 522-1122
いなげや 立川南口支店	栄町2-12-24 526-2947
白洋舎 立川諏訪チェーン店	栄町2-17-5 525-0036
いなげや 松月	栄町2-17-20 523-4758
カレーショップ 砂時計	栄町2-18-10 525-2414
ビューティーサロン ウィスタリア	栄町2-21-15 527-1116
ブックス しんあい	栄町3-1-1 527-6701
ロッテリア 立川南口店	栄町3-1-3 522-3928
関西料理 紀の川	栄町3-4-3 525-5825
とんかつ専門 かつ亀	栄町3-5-2 525-7647
宝飾・時計・メガネ ヨシダ	栄町3-5-4 522-2448
紙匠 雅	栄町3-5-11 548-1388
おしゃべり・英・数・簿記 イスパニスタ	栄町3-6-3 522-2969
サンカメラ	栄町3-7-22 522-3336
あさひ銀行 立川支店	栄町3-10-1 522-4161
松山堂 薬局	栄町3-13-25 522-2550

えくてびあんの輪  
人があて、街があります。  
あなたがあて、立川があります。  
そこにちょっとだけ、えくてびあん！  
リストのお店にはいつでも、えくてびあん！

今月は栄町、富士見町、砂川町、柏町、園町の5店舗です。	
栄町	こむろ 酒店 栄町3-14-3 522-2613
矢沢 歯科眼科 栄町3-16-2 525-6600	
ダイクマ 立川店 富士見町1-24-9 526-1161	
手作りケーキ店 プティパニエ 富士見町1-31-19 529-8364	
株式会社 一如社 富士見町6-1-7 527-2211	
砂川町	JA 経済センター 立川店 砂川町2-44-3 536-1824
JA 東京みどり 立川支店 砂川町2-44-3 536-1821	
柏町	ペーカリー リオンドール 柏町3-3-5 535-4882
ピッツェリア チャオ 柏町3-8-1 535-4882	
和菓子・甘味処 甘泉堂 瑞町1-14-12 522-4305	
不動産 大晋商事 瑞町1-23-9 525-3110	
瑞町	蕎麦屋 無庵 瑞町1-28-5 524-0512
ピストロ シェ・タスケ 瑞町1-28-14 527-5959	
三田 花店 ルミネ立川店 瑞町2-1-1-1F 527-5587	
ルミネ立川店 2F 受付 瑞町2-1-1-2F 527-1411	
オリオン 書房 ルミネ立川店 瑞町2-1-1-7F 527-2311	
印章 印徳 ルミネ立川店 瑞町2-1-1-7F 527-1260	
朝日カルチャーセンター 立川 瑞町2-1-1-9F 527-8511	
東京赤十字血液センター 瑞町2-1-1-9F 527-1140	
和生菓子製造所 日の出屋 本店 瑞町2-18 522-3308	

# 「俊太郎を聴く」

## 第1回「えくてびあんトークサロン」

平成12年10月27日 / 立川市総合女性センター・アイムホール

あの、谷川俊太郎が立川にやってきた。  
創刊17年を迎えた小誌「月刊えくてびあん」が、  
読者の方々への感謝の印として催した「えくてびあんトークサロン」。  
第1回目のゲストとしてお迎えしたのは現代詩の巨人、谷川俊太郎さん。  
そして俊太郎さんの長男・賢作さん率いる気鋭の音楽ユニット、DiVaだ。  
朗読と演奏、両者の競演によるステージングは、  
まさに「うた」としか云いようのない比類のない世界。  
詩と歌の織りなす90分。その芳醇な空気は会場いっぱいにあふれ、  
来場した約200名の聴衆は、贅沢な「秋の実り」に酔いしれた。



### 当日の朗読詩・演奏曲

- |                                  |                           |
|----------------------------------|---------------------------|
| 1. かえる (DiVa)                    | 10. うしなう (DiVa)           |
| 2. はくしゃくふじん (DiVa)               | 11. ラブレター (DiVa)          |
| 3. うんち・ともだちのとびおり・ゆうぐれ<br>(俊太郎朗読) | 12. 足し算と引き算 (俊太郎朗読)       |
| 4. ことばあそびうたメドレー (俊太郎・DiVa)       | 13. びあの (DiVa)            |
| 5. みんなやわらかい (DiVa)               | 14. はな (俊太郎朗読)            |
| 6. みみをすます (俊太郎朗読)                | 15. ひとり (DiVa)            |
| 7. 私たちの星 (DiVa)                  | (アンコール)                   |
| 8. おばあちゃん (DiVa)                 | 1. 人を愛することのできる者の (俊太郎朗読)  |
| 9. あかんぼがいる (俊太郎朗読)               | 2. 2000～21世紀の恋人たちへ (DiVa) |

希望と痛みを内包する俊太郎さんの「言葉」は、高瀬麻里子さんの澄みきったボーカルに乗ることで新たな翼をもち、さらに別の次元へと羽ばたく。



DiVaの音楽的支柱、谷川賢作さん。自由感あふれるメロディー、繊細かつ大胆なアレンジ。その創作の源泉に、父親譲りの「詩心」があるのは間違いない。



洗練された演奏もさることながら、俊太郎さんとの軽妙なやりとりで会場を潤かしていたベースの大坪寛彦さん。DiVaの「あたたかさ」を思い切り体現していた。

開演前、司会の馬越淑美さん(柴崎町)と打ち合わせる義さん。



当日はまず、童話作家の義忠明さん(柴崎町)が舞台上に登場。少年時代の邂逅以来、挫けそうな時には常に俊太郎さんの詩に救われたと、思い入れたっぷりの講演で聴衆を惹きつけた。



## えくてびあん トークサロン 第1回 EKUTEBIAN TALK SALON

公演後のサイン会には長蛇の列が、何度も読み返してボロボロになった俊太郎さんの詩集を大事に抱える熱烈なファンの変も見られた。



ゆめを売るパティシエとして、砂川で確かな地歩を固めている。19歳の時に「服部調理師学校」において手ほどきを受け、20歳から26歳まで「シェ・マキシム・ド・パリ」などで活躍。一流の技術をひきさげて平成3年に一番町に「プリミエール」として独立。平成10年、現在の西砂町に移転してきた。パティスリーの本道は、一貫して「ゆめ」を売りつけることという信念は変わらず、特に幼いお子さまへの気遣いは、成長に応じた味と型を提供しつづけて人気がある。

(於・プリミエール/撮影・細江英公)

## 東風

秋はあっという間に去って、冬将軍が幅をきかせるようになりました。とくに今年は夏が暑く長かったのでその分、秋の短さが強く感じられるのかも知れない。カレンダーもあと一枚、21世紀への突入だ。◆「えくてびあんトークさろん」なる催しをはじめましたところ、新聞各社の記事としてとりあげられたこともあり多くのご応募がございました。ご応募の4分の1程度しかご招待できなかったことは、大変に申し訳なく、残りありますが、第二回、第三回とつづけて毎年秋には開催するつもりでございますのでどうぞ、これからも「トークさろん」をよろしくご支援お願い申し上げます◆立川の文化を担うなどという大それた考えは毛頭ないが、機会さえ与えられればその一翼は担いたいと願っている◆今月の対談の甲斐真理子さんの話も「文化」がかかかっており、世の障害児とよばれるひとはたくさんいて、身を削る思いの世話をしていかなければならない。対談をしていて、私たちはただ傍観者にとどまっていた方がいいのだろうか、という気持ちを強くもった次第である。昔よりはよくなったという立川人がいたが、もっともっと認識を深めてゆく必要があるであろう◆風呂吹を舌にころがす えくてびあん

【第三次えくてびあん同好会】  
編集 大久保清志/小林康史/杉山清純/  
芳賀敏博/山田五郎  
デザイン 油田隆男/AMNET DF  
写真 五束孝平

えくてびあん 12月号  
第18巻 通巻197号  
平成12年12月1日発行  
発行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL. 042-528-0082 FAX. 042-528-0065  
編集人 芳賀敏博  
発行人 立井啓介  
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

## Topics トピックス

### 昇仙峡に響いた癒しの音 気鋭の夫婦ユニットは立川発

『天然音楽浴』コンサート  
10月7日・金桜神社(甲府市)



山梨の名勝・昇仙峡。その先に位置する金桜神社は旧甲府城主の祈願所として名高い大社。この境内を舞台に、さる10月7日、ユニークな演奏会が催された。題して『天然音楽浴』。出演は民族打楽器奏者の甲斐逸朗さん、横笛・響笛奏者の鹿恩(カオン)さん。お二人は夫婦で、現在砂川町に在住。93年から全国各地でこの『天然音楽浴』コンサートを開催している。

いにしへの打楽器を自在に操り、豊かな大地を想起させる逸朗さんのリズムを背景に、舞台中央にすくと立ち、清浄で美しい笛の音を響かせる鹿恩さん。そのコンビネーションはさすが夫婦ならではの、スピリチュアルな雰囲気と親しみ易さが同居する独自のスタイルは他に類のないもの。ロケーションの妙も相俟って、二人が奏する不思議な音楽世界に、集った300人の聴衆はたっぷり酔いしれた。次回『天然音楽浴』コンサートは12月1日・くにたち市民芸術小ホールにて。わが街からまた新しい音楽フォームが登場した。



### 細江英公の写真 1950-2000 EIKOH HOSOE: Photographs

小誌「えくてびあん」表紙撮影者の写真作家・細江英公氏の写真展が開催されます。生涯の代表作が並ぶ、写真界でも画期的な催しです。

期間: 2000年12月12日(火)~  
2001年1月28日(日)  
会場: 渋谷区立松涛美術館  
Tel.03-3465-9421



### 真味百撰 44 活魚割烹 きよみず

●高松町3-19-2 ●526-3885  
●17:00~23:00 ラストオーダー 22:00  
●日曜祝祭日定休 ●カウンター6席 個室5部屋 ●Pなし

市場で鍛えた選定眼  
今宵もお客と店との凌ぎ合いが始まる



刺身盛り合わせ 一人前 3,000円  
(写真・三人前)  
刺身 まぐろ 1,000円、鯛 800円  
焼魚・煮魚 500円より  
天麩羅盛り合わせ 1,200円  
日本酒 久保田 千両 3,000円(4合)  
出羽桜 3,000円(4合)  
その他、銘酒揃い



鮮魚を味わいたいのなら、高松町の「きよみず」に行くと良い。ご主人は、市場の仲買の仕事で15年続いていた栗原猛さん。目利きのご主人とお客との信頼関係は堅固だ。「ここに来れば間違いないものを出してくる」。お客は、栗原さんを信頼して訪れる。その信頼に応えるため、仕入れは真剣勝負。目利きのプライドにかけて、その時季の最高の食材を手に入れる。産地は勿論、水揚げする船まで指定する念の入れ様だ。なんでも、丁寧な仕事をしている船の魚は、姿や味が良いのだという。当然、良いものは値も張る。それをいかに安く仕入れられるかが栗原さんの腕の見せ所。市場だからといってすべての品物が良いとは限らない。まず自ら、良いもの、悪いもの、両方を食べてみる。特に、良いものを食べると悪いものが自ずと判るのだそうだ。そうして培った選定眼。ちゃんとした仕入れが出来るようになるまで3年かかったという。脱サラの末、清水の舞台から飛び降りるつもりで始めたお店。だから、店名を「きよみず」とした。看板は極々シンプル。それ故、敷居が高そうに映るが、そんなことはない。暖簾をくぐると猛さん、恵子さん夫婦が笑顔で迎えてくれる。

## ごさんの独断毒語

# 家族

先月号の続きです。大都会に出たいという気持ちが昂じて、ついにコペンハーゲンへと向かいました。自動車賃のない私は勿論ヒッチハイクです。真冬でした。車を持つ時間がやたらに長く感じられました。それでもアムステルダムからドイツのケルンを抜けて、いよいよ憧れのパリへ。オペラ座の前で車から降りてもらった時のメトロの匂いは今でも忘れません。夕闇の静かなパリでした。フランス語が解らなければ、この都ではなにも出来ないことは以前に経験済みでしたので、安ホテルへ泊まって外国人向けのフランス語学校へ通い、片言ながら話せるようになりなりました。そんな環境でよくぞノイローゼに罹らなかったと不思議なほどです。

一人だけ英語の上手なフランス人女性と知己がありました。私がコペンハーゲンにいた時に旅行にきて、これからニッポンに向うところだというので、早速に私の実家や親友の住所を教え招待状を書いて渡したのが縁で、パリへ帰ってきてから再会したのでした。あやしい私の英語も、あのややこしいフランス語と較べると故郷のように温かいのでした。彼女は熱心に言葉を教えてくれましたが、もつと有難かったのは下宿を探してくれたことです。十五区。アポリネールの詩で名高いミラボ1橋のすぐ傍でした。アパルトマンの六階です。



香三郎安徳IV

から日本流に云えば七階にあたります。下宿のおばさんはむつりとして愛想もなく、ただ、極東の男に部屋を貸してやっているだけという感じで味気ないものでした。近くに娘さん夫婦と孫が二人住んでいて、皆んなしてサロ

ンでお茶をしたり食事しながら談笑しており、その楽しそうな声が私の部屋まで聞こえてきます。日本にいる父母や兄弟を想い寂しくなるのはそんな時でした。何がきっかけだったのでしょか。おばさんと廊下で会った時に、——ムッシュ・ゴローは今夜、自由か?と訊くのです。「自由」などと哲学的なことを急に訊かれても返答のしようがありませんでしたが、えいままよ、とばかりにウイ!と返事をしてしまいました。すると、どうでしょう、その日の夕方にサロンに招かれ盛大な晩餐会の一員にしてくれたのでした。

よく、フランス人はとつときは悪いが一度気をゆるすと無二の親友になると云われますが、それは本統です。爾来、幾度も私はサロンに招かれ馳走になり、話に花を咲かせました。そんなに早くフランス語が上手になったのかと云われそうですが、不思議と下宿の一家とだけは、ころが通じるというか、ゆつたりと話が出来たのです。私は家族の一員になったようで、今でもあの温もりは消えておりません。

(やまだごらう・詩人)

21世紀の鐘、あなたも撞いてみませんか  
大晦日から新年にかけて、厳かに打ち鳴らす除夜の鐘。真如苑ではこれを「一如の鐘」と呼び、柴崎町から立川の宙に響かせて15年になります。この鐘は人数に制限がございますが、どなたでも撞くことができます。



立川に育てられて六十四年

真如苑

柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

### 立川産 朝採り野菜を食卓へ

5月~9月 12:00~18:00  
10月~2月 12:00~17:00  
休日 日曜・祭日

JA東京みどり 全町直売所  
〒190-0002 立川市幸町1-14-1  
Tel. 042-536-2439

### デジタルえほん メモリーブックにどうぞ...

ミッキーやキティちゃんと一緒に...!!  
あなたの写真と名前が絵本の中に入ります。

PLANNING・DESIGN・PROCESS・PRINTING  
大廣社 042-527-1911  
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13  
FAX. 527-1949  
E-mail: JDI06215@nifty.ne.jp

# ニットデザイナー 吉川勝子 (柴崎町)



2000年・秋冬コレクションより



写真の作品は今年の秋冬に向けて手掛けたものです。肩でとじず、ネックから袖口にかけて一枚で編み上げるスタイルは「エポーレット」と呼ばれ、最近の流行スタイルです。色や型には様々な流行があり、それに敏感でいられるということはとても嬉しいことです。結果、今年しか着れないものを作ったとしても、それは「瞬間を演出する」という意味において、とても重要なことなのです。

ただ、色で魅せるのか、型やシルエツトで魅せるのかポイントを絞ること。この「魅せ場はひとつ」という考え方は、常に私の根底にあります。

時は流れます。変わらないもの、変わり続けるもの。その見極めを定めながら、これからも着る人の美しさを導くニットを編んでいきたいと思っています。

よ  
し  
か  
わ  
Katsuko